赤ワインと iPod

　飲み過ぎた。もう朝か。もっと寝ていたい。えんやすに教えてもらった，やまやの紙パックの赤ワインが寝起きの自分を襲ってくる。

　子どもたちは起きてテレビを見ている。ママはまだ寝ている。のんびりしたいがもう時間だ。顔を洗って着替えを済ませると，ママが起きてきた。あれ，昨夜飲み干したはずの赤ワインがまだ少し残っている。コップに入れて冷蔵庫へ。
　娘が残したメロンパンを食べ，夕べの残りのだんごを食べて，
「じゃあ，行ってくるね」
「どこへ」
「勉強会」
「いってらっしゃい」

　車に乗り込み，エンジンＯＮ。正月に買ったiPodをＯＮ。B'zの曲が軽快に流れる中，重い体でアクセルを踏み込む。ミニストップで缶コーヒー（もちろんブラック）を買って，ルート４へ。朝の光が雪の溶けた道路に反射して眩しい。俺の頭はというと，まだどんより。
　高速へ入る。時計を見ると「完全に間に合わないな」。自然とアクセルを踏む足に力が入る。「ウルトラソウル」いかにも力が入るナンバーだ。iPodも俺の頭を起こそうと必死だ。

　高速を降りて仙台市内へとトンネルを抜ける。エレクトロンホール宮城。入口は美女と野獣でいっぱいだ。
「開かない，開かない，開かない。どこから入るんだ」
入口を間違えた。
　エレベーターを降りると見たことのない人たち。
「あちらみたいですよ」
どうやら司法書士には見えないらしい。
　やっとついた。ドアが開いた。
「あ，おはよう，えんやす」